

4-3 | 動植物

▼2,605種以上の動植物が確認されています

本市には、高草山などの山地、大井川、瀬戸川、栃山川などの河川、駿河湾に面する海岸部などの多様な自然環境に2,605種（1,555種の植物、1,050種の動物）が確認されています（参考文献はP.27参照）。



高草山

【植物】

本市の気候帯は暖温帯に属しています。そのため、山地部にはこの気候帯に成立する常緑広葉樹林が分布しています。山地の林内には、スタジイ、アラカシ、ヤブツバキなどの中高木、アオキ、ヒサカキなどの低木のほか、林床にはジャノヒゲ、マンリョウ、テイカカズラなどが生育しています。また、高草山の草地には、キスミレ、イカリソウなどの珍しい植物も見ることができます。

平野部の水田には、湿性な環境を好むミズオオバコ、コナギ、ミズワラビ、カワヂシャ、ジュズダマなどが生育しています。また、大井川、瀬戸川、栃山川などの河川敷には、ツルヨシなどが生育し、ムクノキやエノキなどの河畔林、ススキ、クズ、ヨモギなどの草地があります。

大崩海岸には、イソギク、ハマボッス、マルバアキグミ、ラセイトソウ、ツワブキなどの海岸の断崖地に分布する植物が生育しています。また、小川港より西側に広がる磯浜では、ハマゴウやコウボウムギなどの海浜植物が分布しています。また堤防付近から陸側には、クロマツが帯状に分布し、林内にはムクノキ、ハゼノキ、ノハカタカラクサなどが生育しています。



クロマツ林



タヌキ

【哺乳類】

イノシシ、タヌキ、ノウサギ、ハクビシンなど20種が確認されています。高草山周辺の山地部ではキツネ、タヌキ、ニホンリスなど、平野部では畑地などでモグラ類が確認されています。



コサギ

【鳥類】

コサギ、オナガガモ、ケリなど229種が確認されています。高草山周辺ではオオタカ、サンコウチョウなどの森林性の種が、水田地帯ではシギ・チドリ類やサギ類などが確認されています。また、大井川河口は県内有数の鳥類の生息地になっており、毎年春から夏にかけてはコアジサシやオオヨシキリなどの夏鳥が、冬になるとユリカモメやオナガガモなどの冬鳥が渡ってきます。



ニホンマムシ

【両生類・爬虫類】

爬虫類はニホンイシガメ、ニホンマムシなど15種、両生類はアカハライモリ、ヤマアカガエルなど13種が確認されています。水田地帯では、ニホンアマガエル、トノサマガエルなどカエル類が多く確認されているほか、高草山周辺ではニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、モリアオガエルなどが確認されています。



ニホンウナギ

【魚類】

汽水・海水魚のマハゼ、クサフグ、回遊魚のアユ、ニホンウナギ、ヌマチチブ、純淡水魚のオイカワ、ドジョウ、ミナミメダカなど91種が確認されています。特にオイカワ、ウグイ、ボラ、シマヨシノボリなど、河川の中・下流域に生息する種が多く確認されています。また、湧水がある場所では、スナヤツメ北方種やホトケドジョウなどが確認されています。



コクワガタ

【昆虫類】

昆虫類は、シオカラトンボ、ショウリヨウバッタ、キアゲハ、ナミテントウなど602種が確認されており、特にシズオカオサムシやコクワガタなどのコウチュウ類は昆虫類の中でも確認種数が多くなっています。高草山周辺には、バッタ・コオロギ類、コウチュウ類、チョウ類など、海岸ではハマベハサミムシ、イソカナタタキ、ハマオモトヨトウなどが確認されています。



モクズガニ

【水生生物】

本市では、4年毎に水生生物調査(市域全体)による水質判定を行っており、昆虫類以外の水生生物は今までにナミウズムシ、モノアラガイ、ミナミテナガエビ、モクズガニなど80種が確認されています。湧水が多い河川などでは、ナミウズムシなど「きれいな水」に生息する種が多く確認されています。

【動植物の参考文献】

- 海辺・川辺の生物及び高草山等自然動植物調査業務報告書(2001.12)(資料調査、現地踏査)
- 焼津市環境基本計画策定業務委託報告書(2003.3)
- 平成15年度焼津市自然環境調査業務委託報告書(2004.1)(現地踏査)
- 平成18・19年度大井川町環境基本計画策定業務委託最終報告書(2008.2)(資料調査)
- 昭和62年度焼津市河川水生生物調査報告書(1987.12)
- 平成9年度焼津市河川水生生物調査報告書(1997.12)
- 平成15年度焼津市河川水生生物(訂正生物及び魚類)調査報告書
- 平成18年度河川水生生物(底生動物及び魚類)調査業務委託報告書(2007.2)
- 平成21年度河川水生生物(底生動物及び魚類)調査業務委託報告書(2010.2)
- 平成9年度大井川町河川水生生物調査報告書(1998.3)
- 平成10～18年度大井川町河川水生生物調査報告書(1999.3～H19.3)
- 平成19～20年度焼津市大井川地区河川水生生物調査報告書(2008.3～H21.3)
- 焼津市自然観察ポイントマップ
- 瀬戸川動植物体験観察教室
- 栃山川自然生態観察公園体験観察教室
- 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査) <http://www3.river.go.jp/>
- 大井川町史 上巻
- 焼津市史 通史編 上巻
- 高田歩(2017)静岡県の野生動物におけるマダニ類 東海自然誌(10)1-13
- 渋川浩一・金川直幸・北原佳郎(2017)静岡県焼津市で採集された北限記録のヨウジウオ科アミメカワヨウジ 東海自然誌(10)33-37
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人(2019)静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討(予報) 東海自然誌(12)29-96
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課(2019)まもりたい静岡県の野生生物 2019— 静岡県レッドデータブック — <動物編>
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課(2020)まもりたい静岡県の野生生物 2019— 静岡県レッドデータブック — <植物・菌類編>

▼貴重な植物群落や社寺林が残っています

「自然環境保全基礎調査」（環境省）や「植物群落レッドデータブック」（環境庁植物群落分科会）によると、「高草山のキスミレとヤマタバコ群落」が特定植物群落（学術上重要な群落や保護を要する群落）あるいは「緊急に対策が必要」な群落として選定されています。また、「旭伝院の松」ほか3件の樹木が、市の天然記念物に指定されています。

「静岡県自然環境基本調査・社寺林調査報告書」には、当目山香集寺虚空蔵尊をはじめとする計5件の社寺林が報告されています。社寺林の多くは、クスノキ、シイ、タブノキなどの常緑広葉樹を主とした森林です。

「巨樹巨木林データベース」（環境省）には、クロマツ10件、スギ1件、クスノキ6件、ケヤキ1件、ムクノキ1件、ヤマモモ3件の合計22件の巨樹が記録されています。これらの大部分は市内の寺社で見ることができます。



キスミレ

特定植物群落・天然記念物・主な社寺林

項目	樹種・社寺
特定植物群落	高草山のキスミレとヤマタバコ群落
市指定天然記念物	旭伝院のマツ、臥竜のマツ、猪之谷神社のナギノキ
社寺林	当目山香集寺虚空蔵尊、須賀神社、林叟禅院、坂本神社、上小杉八幡宮

【資料：第2・3回自然環境保全基礎調査、植物群落レッドデータブック、静岡県自然環境基本調査】

▼絶滅の可能性がある動植物が確認されています

国や県では、絶滅の可能性がある動植物の種名をレッドリストとして公表し、各種の情報を収録したレッドデータブックを作成しています。

市内では、ミナミメダカをはじめ静岡県版レッドリスト掲載の259種（植物132種、動物127種）が確認されています。



ミナミメダカ
（絶滅危惧ⅠA類）

静岡県版レッドリストのカテゴリー区分と確認種数

カテゴリー区分	基本概念	本市での確認種数	
		植物	動物
絶滅（EX）	本県で既に絶滅したと考えられる種	1	0
野生絶滅（EW）	飼育・栽培下でのみ存続している種	0	0
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種		
ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	6	13
ⅠB類（EN）	近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	17	11
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種	50	32
準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種	22	32
情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種	2	7
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している地域個体群で絶滅のおそれが高いもの	0	0
要注目種	本県独自のカテゴリー		
現状不明（N-I）	現状が不明な種	5	1
分布上注目種（N-II）	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	1	10
部会注目種（N-III）	その他各部会で注目すべきと判断した種	28	21
静岡県版レッドリスト掲載種合計		132種	127種

▼市内で外来種が確認されています

「外来種」とは、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことを指し、現在分かっているだけでも2,000種以上の外来種が日本に生育・生息しています。2005（平成17）年10月に施行された「外来生物法」では、海外から来た外来種の中から、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすおそれのある外来種を「特定外来生物」に指定し、飼育、栽培、保管・運搬、輸入、野外への放出などが原則禁止されました。

本市では、外来種として383種（植物342種、動物41種）の記録があり、そのうち特定外来生物としてはナルトサワギク、ブルーギルなど8種（植物4種、動物4種）が確認されています。



ナルトサワギク



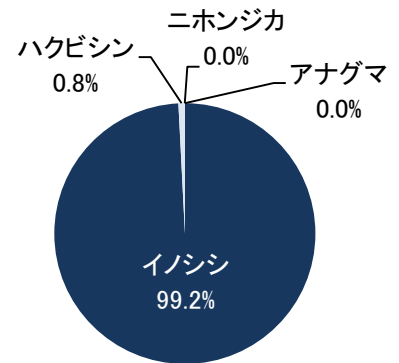
ブルーギル

特定外来生物

植物	アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナルトサワギク
動物	ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス

▼イノシシやハクビシンによる被害が発生しています

本市は、耕作放棄地や放任果樹など、野生鳥獣が生息しやすい環境が多い状況にあります。2020（令和2）年度の被害面積は134a、被害金額は299.3万円でした。特にイノシシによる被害が多く、中山間地を中心に農作物などの被害が発生しています。また、茶園やミカン畑の掘り起し、法面や道路肩の崩落などの被害も発生しています。

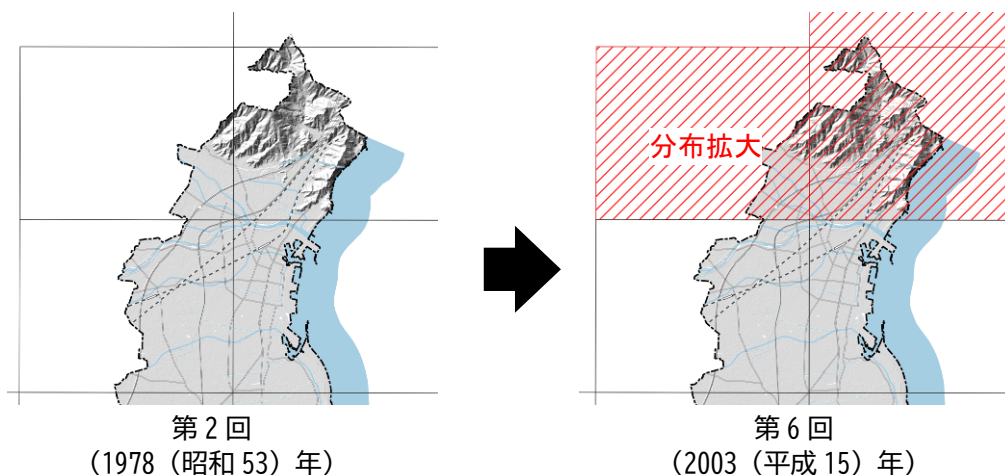


鳥獣被害の内訳
(2020年度)

【資料：焼津市農政課】

▼イノシシの分布が拡大しています

環境省の「自然環境保全基礎調査」の結果によると、1978（昭和53）年には確認されていなかったイノシシが、2003（平成15）年には市北部の山間部で確認されるようになりましたが、豚熱の発生により生息しているイノシシの数は一時期に比べ減少しているものと考えられます。



イノシシの分布の拡大

【資料：環境省・生物多様性ウェブサイト自然環境保全基礎調査】

4-4 | 人と自然とのふれあい

▼釣りやハイキング、自然観察などの自然とのふれあいの場があります

市内には、自然とふれあうことのできる場所が存在します。焼津漁港や大井川港、駿河海岸での釣り、高草山や満観峰などへのハイキングコースのほか、湧水や海水浴場などがあります。

自然観察ができる場所としては、栃山川自然生態観察公園、瀬戸川、石津浜、焼津漁港親水広場「ふいしゅーな」などがあります。また、海岸沿いには優れた眺望地点があるほか、中小河川沿いには桜並木が多く分布し、お花見ができます。



瀬戸川桜並木



朝比奈川桜並木



瀬戸川緑地



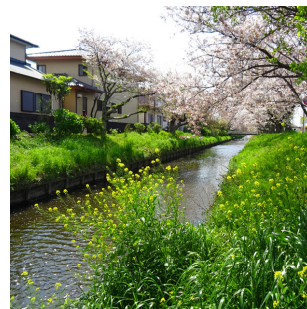
虚空蔵山



黒石川桜並木



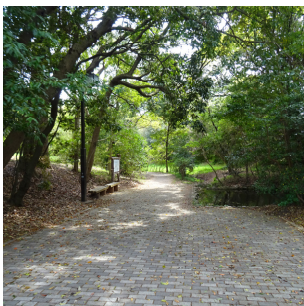
栃山川緑地公園



木屋川桜並木



浜当目海岸



栃山川自然生態観察公園



吉永コミュニティパーク



石津浜海岸



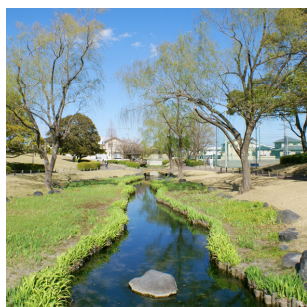
焼津漁港親水広場
ふいしゅーな



大井川河口野鳥園



吉永海岸遊歩道



小川公園



小川港

第5節 安全安心社会

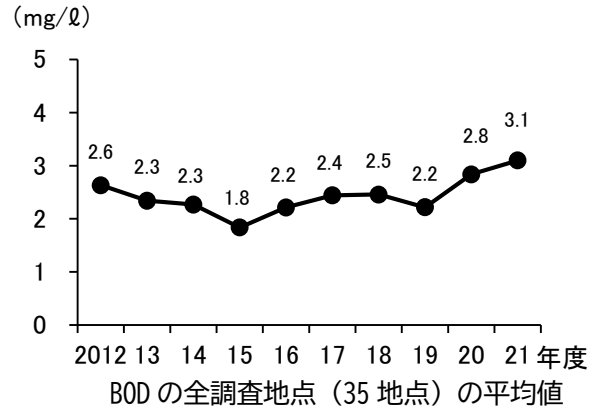


5-1 | 水質

▼河川水質は良好な状態です

河川の水質については、35 地点で定期的に測定を行っています。2021（令和3）年度のBOD（生物化学的酸素要求量）は、環境基準が設定されている県測定5地点全てで環境基準を達成しています。

全調査地点のBOD（75%値）の平均値をみると、市全体の河川水質は過去10年間と比較すると高い値を示しています。

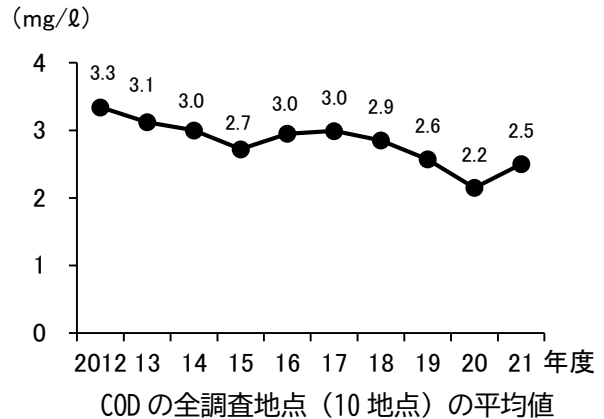


【資料：焼津市の環境】

▼海域水質は環境基準を一部超過しています

海域の水質については、10 地点で定期的に測定を行っています。2021（令和3）年度のCOD（化学的酸素要求量）は、環境基準が設定されている県測定5地点全てで環境基準を達成しています。

全調査地点のCOD（75%値）の平均値をみると、市全体の海域水質は横ばい傾向にあります。

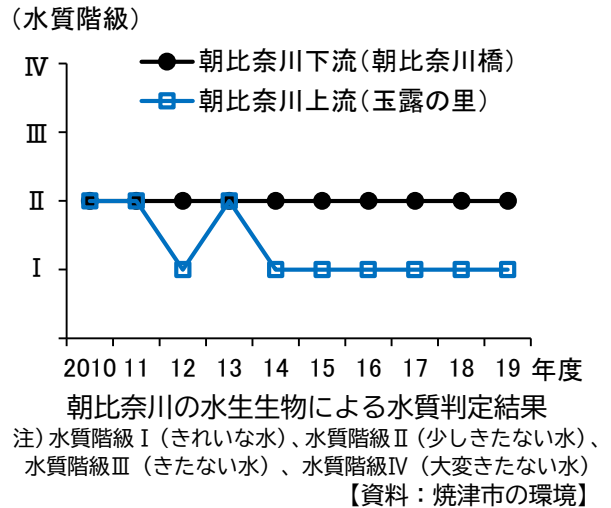


【資料：焼津市の環境】

▼水生生物による水質判定を実施しています

朝比奈川では、毎年、水生生物による水質判定を行うとともに、親子水生生物教室を実施しています。2019（令和元）年度の水質判定結果は、下流にある朝比奈川橋付近が水質階級Ⅱ、上流にある玉露の里付近（藤枝市岡部町）が水質階級Ⅰでした。

また、過去と比較すると、2014（平成26）年以降は、同様の傾向が続いています。

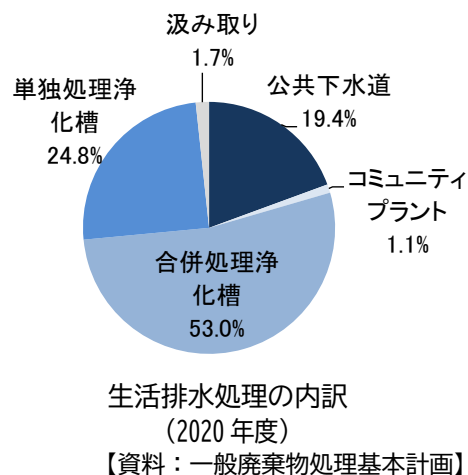
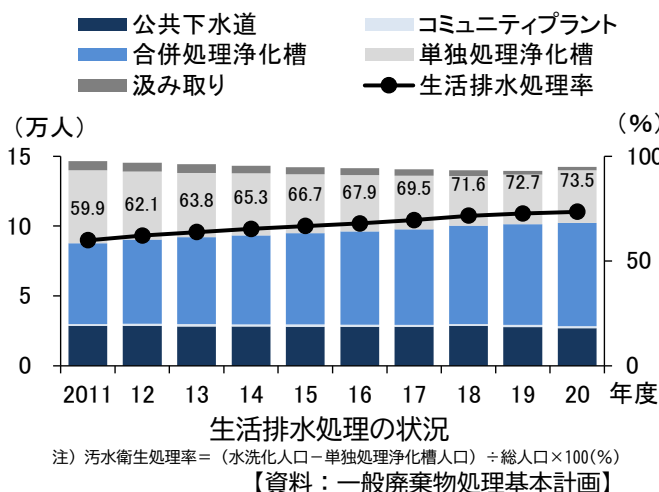


注) 水質階級Ⅰ（きれいな水）、水質階級Ⅱ（少しきたない水）、水質階級Ⅲ（きたない水）、水質階級Ⅳ（大変きたない水）
【資料：焼津市の環境】

▼生活排水の3割は直接河川などに流れこんでいます

家庭や事業所から排出される汚水は、河川や海域の水質汚濁の主な原因となっています。そのため、公共下水道や合併処理浄化槽などの整備は、水質汚濁の防止のために重要です。

生活排水処理の状況を見ると、生活排水処理率は年々増加し、2020（令和2）年度には73.5%になっているものの、まだ生活排水の約3割弱が河川などに直接流れ込んでいるため、生活排水処理施設の整備促進が必要となっています。

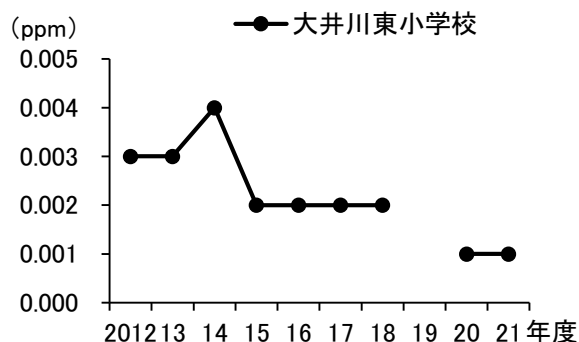


5-2 | 大気

▼大気汚染はおおむね環境基準を達成しています

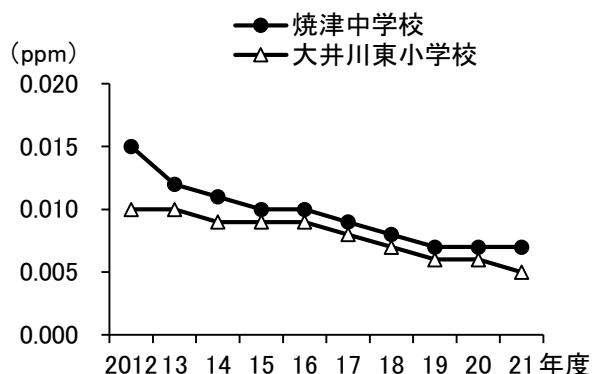
大気を汚染する物質は、工場から排出される二酸化硫黄(SO₂)や浮遊粒子状物質(SPM)、自動車などから排出される二酸化窒素(NO₂)、二次的に生成される光化学オキシダント(O_x)などがあり、それぞれ環境基準が定められています。

本市では、焼津中学校と大井川東小学校に設置している自動測定局で、大気汚染物質を監視しています。2010(平成22)年度以降の大気汚染物質濃度をみると、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質は環境基準を下回っていますが、光化学オキシダントは環境基準を超えた時間がありました。



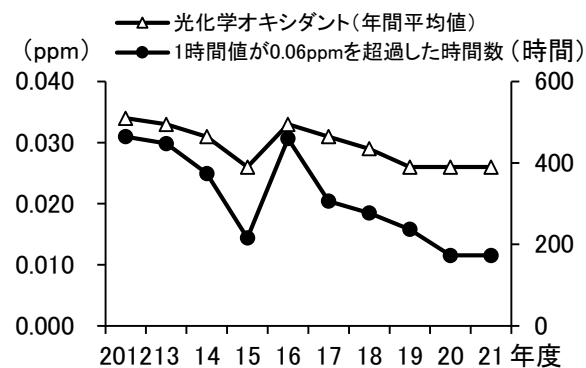
二酸化硫黄濃度 (日平均値の2%除外値)

注1) 環境基準は1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。
注2) 2019年度は機器故障のため欠損、2020年度は年間測定時間が6,000時間未満のため、非有効測定局と位置付けられる。



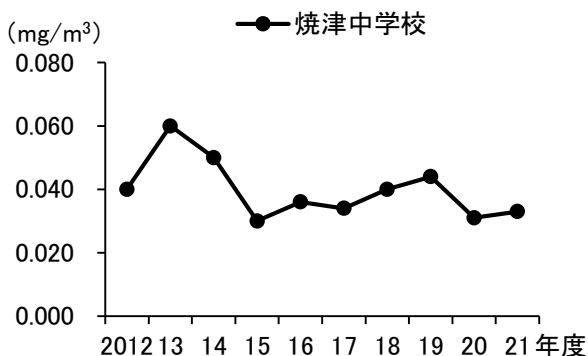
二酸化窒素濃度 (年間値の98%値)

注1) 環境基準は1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。
注2) 2019年度の焼津中学校は年間測定時間が6,000時間未満のため、非有効測定局と位置付けられる。



光化学オキシダント濃度 (年間平均値)

注) 環境基準は1時間値が0.06ppm以下であること。



浮遊粒子状物質濃度 (日平均値の2%除外値)

注1) 環境基準は1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m³以下であること。
注2) 2019年度、2020年度は年間測定時間が6,000時間未満のため、非有効測定局と位置付けられる。

【資料：焼津市の環境】

5-3 | 悪臭・騒音・振動

▼製造業などの悪臭の苦情が発生しています

人に不快感を与えるにおいの原因となる物質が、大気中に放出されるために発生するのが悪臭です。悪臭として市に寄せられる相談は、食料品製造業から発生したにおいが多くあります。2021（令和3）年度の悪臭に関する苦情発生件数は17件でした。

▼近隣騒音への苦情が発生しています

騒音は、工場や商店、飲食店、建設工事などの生産・営業活動のほか、自動車の走行などにより発生します。騒音についての苦情は近年増加傾向にあり、2021（令和3）年度の公害苦情97件のうち24件、24.7%を占めています。特に近年では住宅の過密化や事業場の立地により住宅と事業場が近接し、事業場からの作業音や機械から発生する音が苦情の原因となるケースが増加しています。

▼道路交通騒音はおおむね環境基準を達成しています

道路交通騒音は、市内の主要道路において騒音の測定を実施し、自動車騒音に係る環境基準の達成状況を調査しています。2021（令和3）年度は、市内の道路3地点で騒音測定を実施し、全地点で環境基準を達成しました。また、面的評価結果では、対象とした全2,118戸のうち、昼夜とも基準値以下を達成していた割合は99.9%でした。

5-4 | 有害化学物質・公害

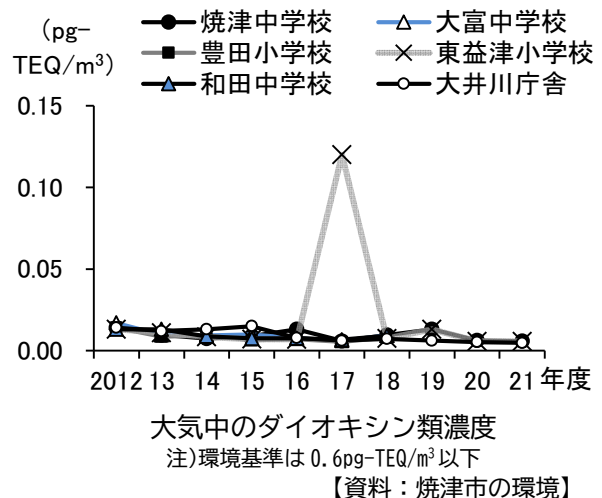
▼約215tの化学物質が市内から排出・移動しています

5万種以上あるといわれる化学物質の中には、アスベストやダイオキシン類など、発がん性や生殖毒性などを持つものが多数存在し、これらが大気や水を経由して人や生態系に影響を与えるおそれがあります。特に化学物質の取扱量が多い事業所では、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づいた化学物質の適正管理が求められています。

「令和元年度PRTR報告書」によると、2019（令和元）年度に焼津市から排出・移動した化学物質の量は、約214.9tであり、特に大気中への排出が全体の74.8%を占めています。

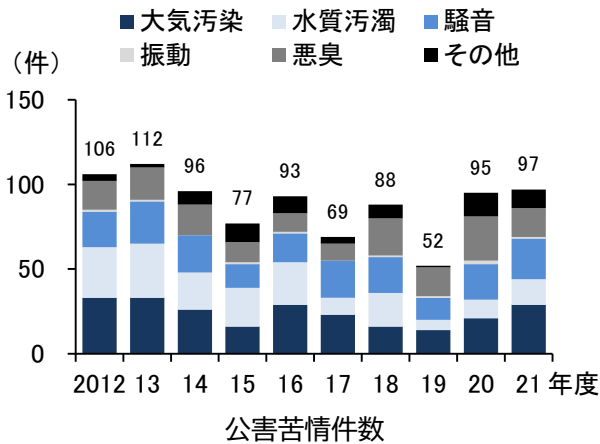
▼ダイオキシン類濃度は環境基準を達成しています

大気中のダイオキシン類濃度は、環境基準を達成しており、2011（平成23）年度以降、低い数値で推移しています。なお、東益津小学校では0.12pg-TEQ/m³の値の年があるものの、環境基準（0.6pg-TEQ/m³以下）を大きく下回っています。

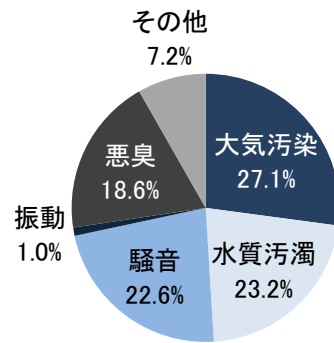


▼公害苦情件数は減少傾向から増加に転じています

公害苦情件数は2019（令和元）年度までは減少傾向にありましたが、2020（令和2）年度より増加に転じています。件数の最も多くを占める大気汚染は、屋外での焼却行為（野焼き）が多くを占め、そのほとんどが個人によるものです。



【資料：焼津市の環境】



公害苦情件数の内訳 (2012～2021年度)

【資料：焼津市の環境】

▼161社と公害防止協定を締結しています

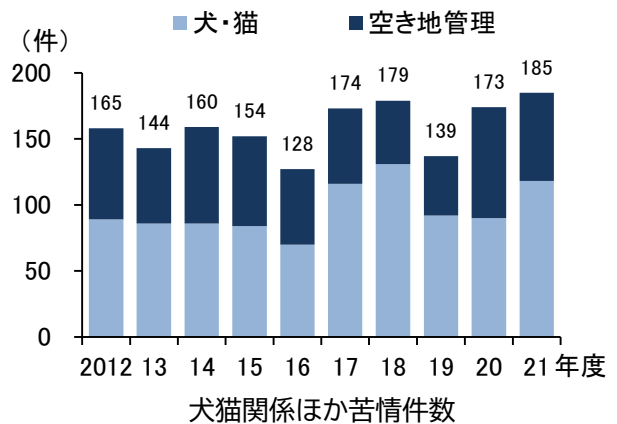
未然に公害の発生を防ぐため、市と事業者との間で公害防止協定を締結しています。2021（令和3）年度における公害防止協定締結社数は、161社でした。

▼生活に密着した苦情が増加傾向にあります

犬猫によるふん害や空き地管理などの苦情は増加傾向にあり、2021（令和3）年度は合計185件の苦情が寄せられています。

犬はふん害や無駄吠え、猫は野良猫によるふん害や子猫の産み落としなどによる相談が後を絶たない状況にあります。

空き地管理については、良好な生活環境を保全することを目的として、空き地の雑草等による苦情について現地調査のうえ、「焼津市環境美化推進条例」に基づき土地所有者に対して適正な管理を指導しています。



【資料：焼津市の環境】

コラム



屋外での焼却行為（野焼き）の禁止

屋外での焼却行為は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、例外及び構造基準を満たした焼却炉での焼却を除き、原則禁止されています。どんと焼き等の地域の行事における不要となった門松・しめ縄等の焼却、農業・林業・漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却、たき火その他日常生活を営む上で通常行われる廃棄物の焼却であって軽微なものについては、例外とされているものの、周囲の住宅環境に影響を及ぼしている場合は、行政指導の対象となる場合があります。

第6節 統合的な取り組み

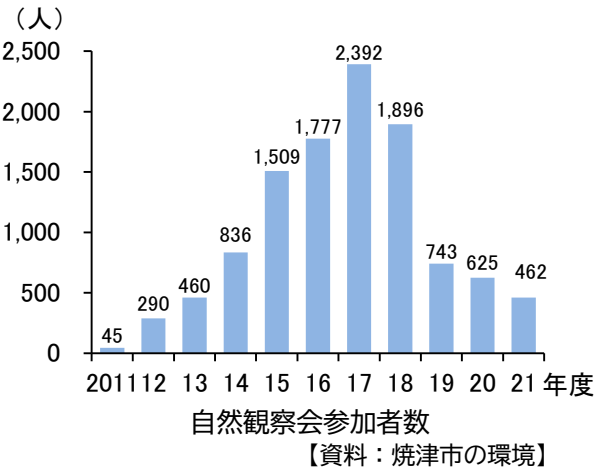
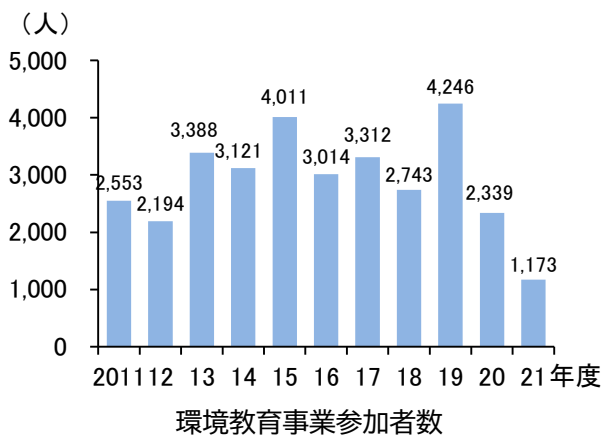


6-1 | 環境教育・環境学習・環境情報

▼子どもたちを中心に環境教育・環境学習を実践しています

市では、児童から高齢者までを対象に地球温暖化問題やごみ問題などをテーマにした出前講座のほか、小学生を家庭のエコリーダーに認定する「アース・キッズチャレンジ事業」、水生生物による水質判定を行う「夏休み親子水生生物教室」などの環境教育・環境学習を行っています。

2021（令和3）年度の環境教育事業参加者数は1,173人/年、自然観察会参加者数は462人/年でした。



環境教育の実績事例

活動種	内容
環境出前講座	環境に対する意識の向上を図るため、市民を対象とした環境出前講座を行っています。小中高等学校での授業、公民館での講座、自治会やグループでの勉強会など、様々なシーンで利用できます。
アース・キッズチャレンジ事業	小学生を対象として、ごみ分別ゲームや発電体験をするなど様々な角度から地球温暖化防止に対する意識を高め、各家庭でエコにつながる活動に各自で取り組みを行います。静岡県地球温暖化防止活動推進センターとの協働事業です。
夏休み親子水生生物教室	毎年、夏休みに小中学生とその保護者を対象とした水生生物観察会を開催しています。朝比奈川の上流と下流で水生生物を観察し、水質の状況を調べます。
市独自の環境教育資料の作成	市独自の環境教育資料として、「水生生物マップ」などを作成して小学生に配布し、環境教育・環境学習に活用しています。
学校における環境教育の実践	市内の学校では、総合的な学習の時間や各教科の中で環境教育を実践しています。

【資料：焼津市】

▼「やいづエコ市民塾」を開催しています

市民の環境意識の向上を図り、市民から市民へと環境活動の輪を広げ、よりよい環境を将来の世代へ継承する「エコ市民」を育成するため、「やいづエコ市民塾」を毎年開催（2021（令和3）年度は全5回）しています。講座の修了者には、地域、学校、事業所での環境への取り組み啓発や、環境活動を率先して行うなど、環境リーダーとしての活躍が期待されています。

▼環境教育に活用できる拠点が 있습니다

市内の環境教育の活動としては、ディスカバリーパーク焼津や深層水ミュージアム、静岡県水産技術研究所展示室「うみしる」などがあります。



環境教育の拠点

拠点	内容
ディスカバリーパーク焼津	天文台、プラネタリウム、展示・体験室を備える施設です。国内でも有数の光学式大型望遠鏡があり、星空観望会が土日に行われています。
深層水ミュージアム	日本一深い駿河湾からもたらされる深層水の取水地である焼津市として、小中学生や市民を対象に駿河湾深層水に関する知識や情報を普及、啓発、発信することによって、「漁港と都市の共生・対流」を図ることを目的としています。
静岡県水産・海洋技術研究所展示室「うみしる」	四季折々の水産物を紹介するジオラママッピングや駿河湾に生息する魚や深海生物を展示する大小7つの水槽、静岡の水産業や魚食文化、水産・海洋技術研究所の研究成果を紹介する展示物などがあり、子どもから大人まで「見て、触って、学ぶ」ことができる施設となっています。2018（平成30）年5月にリニューアルオープンしました。



ディスカバリーパーク焼津



深層水ミュージアム



うみしる

【資料：静岡県産業政策課】

▼環境報告書や広報紙による情報提供を行っています

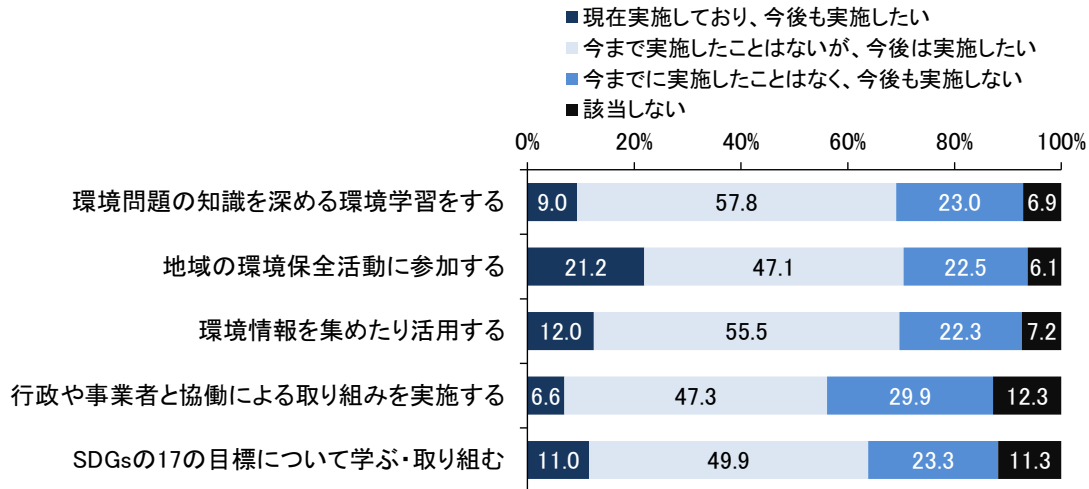
本市では、環境施策や環境の現状をまとめた「環境報告書（焼津市の環境）」を毎年発行し、本市の環境情報を提供しています。また、市のホームページや「広報やいづ」などによる啓発も行っています。



6-2 | 参加・協働による環境保全活動

▼環境保全活動に今後は参加・協働したいという意向が多くなっています

「第3次焼津市環境基本計画に関する意識調査」(2020(令和2)年9月)によると、日常の取り組み状況のうち、参加・協働に関するものは、現在実施している人の割合が低い(6.6~21.2%)ものの、今後は実施したいと回答している人の割合(47.1%~57.8%)が多くなっています。



日常の取り組み状況(参加・協働に関する設問)

【資料：第3次焼津市環境基本計画に関する意識調査】(2020(令和2)年9月)

▼環境保全活動団体の登録制度があります

市内で環境保全活動を実施する団体などを市が登録・認定し、市民・事業者・市が一体となって環境基本計画に掲載した取り組みを推進していくための環境保全活動団体登録制度が2014(平成26)年度から創設されました。2022(令和4)年5月時点で13団体・個人が登録されており、CSR活動の一環として環境保全活動を実践する事業者が増えています。環境保全活動団体登録制度に登録されている事業所の活動としては、清掃活動、エコキャップ運動、太陽光パネルの設置、LED化、グリーン電力の使用、緑化活動などがあげられています。

6-3 | 環境と経済

▼市役所ではエコアクション21の認証登録をしています

本市では、2010(平成22)年10月に焼津市役所(本庁舎・大井川庁舎・アトレ庁舎など)を対象として、エコアクション21の認証登録をしています。その後、認証登録範囲を拡大し、現在は、市立総合病院を除く全施設において認証取得をしています。また、エコアクション21の活動をとりまとめた環境経営レポートを毎年発行しています。

▼事業者を対象にエコアクション21認証取得を支援しています

本市では、市内事業者を対象にエコアクション21認証登録申請までの指導・助言を実施する「エコアクション21認証登録支援事業」を実施しています。支援事業は1年間にセミナーを5回開催し、エコアクション21認証登録申請への準備に取り組むものです。なお、市内事業者のエコアクション21認証登録事業者数は、2021(令和3)年度で38事業者となっています。